



環境局

一般会計要求総額

12,158百万円

(対前年度 ▲6.6%)

⑨:新規事業 ⑩:拡充事業

<基本的な考え方>

- ◆ 環境局は、「Green Growth (グリーン グロース)」を合言葉に、環境の技術、人材、ノウハウの蓄積を総動員して、高度に環境化し、かつ、エネルギーに強いまちへの変貌を図り、海外マーケットを自ら切り開くことで、世界に冠たる北九州市の環境の力を経済の成長につなげていく。
- また、豊かな自然や都市環境の保全、それらを育む企業や市民の選択をより環境に配慮したものに変わっていく仕組みを作り、快適で安心できるまちづくりを進める。

○水素社会を見据えた取り組み	⑩ 水素供給拠点形成事業	41百万円	[環境未来都市推進室]
	⑨ 水素エネルギー社会構築推進事業	11百万円	[環境未来都市推進室]
	⑨ 北九州スマートコミュニティ推進事業	73百万円	[環境未来都市推進室]
	⑨ 燃料電池自動車導入助成事業	5百万円	[環境未来都市推進室]
○地域エネルギー拠点化の推進	地域エネルギー政策推進事業	22百万円	[環境未来都市推進室]
	⑨ 地域エネルギー政策推進事業(国有地取得費用)	※0百万円	[環境未来都市推進室]
	※平成28年度債務負担行為額 1,200百万円		
	⑨ 地域共生型洋上風力発電推進事業	31百万円	[環境未来都市推進室]
○「北九州モデル」の本格的な海外展開	「北九州モデル」を活用した都市環境インフラビジネス推進事業	35百万円	[環境国際戦略課]
	⑩ 日中大気汚染・省エネ対策共同事業	59百万円	[環境国際戦略課]
	⑩ 新メカニズム構築事業	3百万円	[環境国際戦略課]
○市民環境力の強化	⑨ 「ていたん」がナビゲートする環境発信戦略事業	13百万円	[総務課]
○快適で安心できる生活環境の確保	ESD活動支援事業	14百万円	[環境学習課]
	⑩ ごみステーション改善推進事業	8百万円	[業務課]
	⑩ 事業系廃棄物の減量・資源化推進事業	2百万円	[循環社会推進課]

水素社会を見据えた取り組み

水素供給拠点形成事業

来るべき水素社会を見据え、燃料電池自動車(FCV)普及の基盤となる水素ステーションの積極的な誘致活動を行うとともに、水素供給拠点形成に向けて、水素に関する課題整理や情報共有、意見交換などを行う会議を開催する。また、エコタウンセンターに新たに太陽光発電・風力発電設備を設置することにより、スマート水素ステーション(SHS)を活用したCO2を全く排出しない水素製造の実証実験に協力するもの。

41百万円[環境未来都市推進室]

地域エネルギー拠点化の推進

地域エネルギー政策推進事業

本市は、市民生活・産業活動といった地域を支える観点から、低炭素・安定・安価なエネルギーを地域に供給することを目指し、「北九州市地域エネルギー拠点化推進事業」に取り組んでいる。

平成27年度は、「風力発電・高効率火力発電の立地」及び「地域エネルギー会社の設立」に向けたさらなる取り組みを進める。

22百万円[環境未来都市推進室]

Green Growth を 合言葉に

「北九州モデル」の本格的な海外展開

「北九州モデル」を活用した都市環境インフラビジネス推進事業

本市に蓄積された都市環境インフラに係る技術や行政ノウハウなどを体系的に整理した「北九州モデル」を活用し、都市インフラビジネスをさらに推進する。

具体的には、ベトナム・ハイフォン市、タイ・ラヨン県における事業化調査や、ミャンマー等での基礎調査などを行う。

35百万円[環境国際戦略課]

市民環境力の強化、快適で安心できる生活環境の確保

ごみステーション改善推進事業

本市のごみ収集の基本である「ごみステーション」について、ごみ出しルール違反者への指導強化や、地域と一緒にステーションの問題解決を図る。

また、地域の様々な取り組み事例を広く紹介するなど、地域が行っているステーション管理に対する支援策を強化・拡充する。

8百万円[業務課]